

令和 2 年度第 1 回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略
推進協議会会議録（要旨）

- 開催日時 令和 2 年 9 月 1 1 日（金） 午後 2 時 3 0 分～午後 3 時 5 0 分
- 開催場所 北庁舎 3 階第 5 会議室
- 出席委員 1 2 名
都留会長、秋山副会長、岡本委員、小野満委員、加藤委員、金子委員、
小出委員、齋藤委員、鈴木委員、松本委員、中島委員、目時委員
- 欠席委員 なし
- 事務局
石橋政策総務部長、大井政策課長、吉本政策課長補佐、岡村政策課副主
幹、桜田理事、橋本主任
- 出席説明員
（市民協働推進部）協働推進課 金崎課長補佐
（生活環境部） 産業振興課 山下次長（兼）課長、稲葉係長
（文化スポーツ部）文化生涯学習課 楠本課長補佐
ふるさと文化財課 江口課長、英主幹
スポーツ振興課 市ノ川課長
美術館 相馬副館長
- 傍聴者 なし
- 議事日程
 - 1 開会
 - 2 報告事項
府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の見直し等について
 - 3 審議事項
具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について
（対象：令和元年度、3 事業）
 - (1) 市内企業の経営支援
 - (2) 企業・創業の支援
 - (3) 歴史や文化、スポーツに触れる機会の充実
 - 4 その他

■ 会 議 録 (要旨)

○会 長 それでは、ただいまから令和2年度第1回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を始めます。
まず、本日の委員の出席状況を事務局から報告してください。

○事務局 (出席状況の報告)

○会 長 ありがとうございます。
なお、今回、資料1として本日付の委員名簿が配布されていますので、事務局から説明をしてください。

○事務局 (資料1に基づき、新たに委嘱した委員3人を紹介)

○会 長 改めて、各委員の皆さん、よろしくお祈いします。
続いて、事務局から本日の傍聴希望の状況を報告してください。

○事務局 本日は傍聴者なしでございます。

○会 長 それでは、本日は傍聴者なしということになります。
続いて、本日の配布資料について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 本日配布した資料について説明いたします。
(配布資料の確認・説明)

【報告事項】

○会 長 「府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の見直し等」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 (資料2及び別表に基づいて説明)

○会 長 私たちが昨年10月に答申した内容に基づき、総合戦略の計画期間を令和2年度と3年度の2年間延長し、その後、令和4年度開始の総合計画に統合していく、というご報告でした。
委員の皆さんからご質問やご意見はございますか。

○委員一同 （質問、意見無し。）

○会 長 それでは、ただ今の報告を了承します。

【審議事項】

○会 長 次に「審議事項」「具体的な施策・重要業績評価指標（K P I）進捗状況の評価について（令和元年度、3事業）」に入ります。

今年度の評価票の書式について、例年のものと若干異なっているので、最初にその点について事務局から説明願います。

○事務局 今年度の評価票の書式につきましては、例年の項目に加えて、担当課による「5年間の事業の総括」という項目を作成いたしました。総合戦略が当初5年間の計画として作成されておりましたので、一応の区切りとして中間的な事業総括をさせていただいたものです。

○会 長 今年度については、5年間の総括という項目が追加されているということです。

それでは、協議会としての評価に移ります。

最初に施策「市内企業の経営支援」ですが、まず、市の担当課の方から担当課評価等について説明願います。

○市担当課（産業振興課） （資料3に基づき、評価の概要を説明）

○会 長 それでは、担当委員より説明をお願いします。

○担当委員 協議会評価は主管課評価と同様、B評価としました。

①の融資実行件数について、目標の300件には届きませんが、増加しており、概ね順調に推移しています。また、担当課の5年間の総括にもありますように、新型コロナウイルス感染症の影響がありますので、素直に増加を喜ぶのかということもありますが、市内各業者のニーズの増加もあると思うので、引き続きの支援に期待します。

②商店街のイベント事業補助金ですが、1商店街、2事業分が減少しているため、その点を記載しました。目標には届いていないのですが、安定していると言えばそういうのですが、やはり商店街やイベントの固定化があるのではないかと、ということで、後半部分に「商店会の固定化はないか、未実施の商店会における課題は何か等の確認も必要ではな

いか」と記載しました。

③の技術相談の件数ですが、20件の減少ということですが、目標値はすでに達成しており、評価できると記載しました。今後相談の内容を申請支援相談や技術情報提供に重点を移し、相談拠点を一元化することで、さらなる市内産業の振興支援を期待しています。

以上のことから、トータル評価としてB評価を提案させていただきます。

○会 長 ありがとうございました。

担当課評価、協議会評価を一括で議論いただきたいと思いますが、他の委員から何かご意見などがあればお願いします。

○委 員 担当課評価の部分になりますが、融資実行件数についてB評価となっていますが、平成29年度以降増加傾向であることと、担当課評価の「5年間総括」にも書かれています。融資の実行件数が低いことが、必ずしもそのままネガティブなものではないのではないかと思います。困っている方がそれだけ少ない、景気がいいからということを書かれているのですが、そう考えた時に、融資の実行件数が目標値の300件より少ないという数字だけ見ると、B評価は妥当かなと思うのですが、他の2つのKPIがAがついている中で、総合的に見たときに実行件数が足を引っ張ってB評価にされているのであれば、ここはその内実を見たときには、極端な話として、Aでもよいのではないかと思います。いかがでしょうか。

○市担当課（産業振興課） 市としても同様な考え方を持っております。考え方に2種類ありまして、本市の融資の種類については運転支援と設備、不況、創業といくつかの項目がございます。運転と設備につきましては新たな事業開拓に基づくプラスの評価の融資と捉えて、この指標が決定されているものと認識していますが、しかしながら「不況」につきましても、コロナの状況を見ますと、不況だからこそ増えるという面もございます。

昨年度と一昨年度を比べますと、平成30年度につきましても不況対策68件、昨年度につきましても59件と若干下がっております。ですので、景気から判断する企業側の判断になりますと、プラスとされるであろうと認識はしているものの、この指標の捉え方が件数によるものとされておりますので、担当課評価をBとさせていただいたものです。

○委員 理由はわかりました。300件という目標で270件実行なので、数字で見るとB評価というのは異論ありませんが、この協議会では、こういった場合に数値の達成度だけで評価をするのか、あるいは、今のような内実を含めて評価をするのでしたのでしょうか。

○会長 単純に数値評価をするのでなしに、定性的な部分を考慮しながらやるべきだといった論議があって、それが認められたと記憶しています。

ですので、単純に数値を見比べているだけではなくて、担当課から説明がありましたように、融資といっても2パターンあって、ひとつは運転資金、そちらの方はいいのですが、もう一つの方があまりよくないという内実を踏まえた結果だとわたくしは認識しました。

他にありますか。

○会長 それでは、私から2点確認したいのですが、「令和2年度における取組など」のところで、無利子無担保の融資が行われているところですが、国の融資があって、東京都ではそれに上乘せがある形になっているのではなかったのでしょうか。上乘せがあるとすると、国、東京都、府中市という三段構えになるかと思うのですが、これはその上乘せとは関係ない話でしたでしょうか。

○市担当課（産業振興課） この融資につきましては、コロナ禍の状況の中で、相当数の企業が資金繰りに困っているという状況であるということから、日本政策金融公庫の融資利子自体を基本的にはゼロとする制度が全国的に施行されております。

本市の融資制度の充実を図る意味から、補正予算を組んでそれなりの対策をしていたところですが、具体的に数字を申しますと、コロナ前の平成30年度1～3月期は40件の実行件数でありましたが、コロナ後の平成31年度1～3月期では70件を超える融資の相談がありました。その後、国の無利子無担保の融資制度が開始されたことに伴い、市への相談はほぼ来ておりません。現状、半年間が過ぎましたが、昨年度は300件近い融資の実行がありましたが、今年度はまだ60件に達していない状況です。

○会長 上乘せということではない、ということですね。

もう1点ですが、商店会のイベント補助の関係ですが、この評価がA

ですが、担当課評価の中にもありましたし、担当委員の評価にもあったのですが、件数は出ているが、ややマンネリ化しているという問題があるように聞こえたのですが、もしそうであるのなら、アドバイスやコンサルティングなどをした方がいいのではないか。内部で議論をしても新しいアイデアはなかなか出てこないのではないか、と思います。「何らかの確認も必要ではないかと考える。」というのはそういったことも含まれるのか、どうでしょうか。

○担当委員 会長のおっしゃるとおり、わたくしもそう思っております、そういうことも含め、「等」ということで広く示したところです。令和元年度の評価ということですので、そこから外れ過ぎないように具体的な事例を書き込むことを避けたところです。

○市担当課（産業振興課） 協議会評価での2点のご指摘は、その通りだと認識しております。現在の商店街につきまして、全体的に疲弊してしまっている感があります。イベントについても新たな発想は生まれていない状況です。これを打破するために、新たな事業展開について商工会議所を通じて企業診断士にアドバイスをいただきながら実施しているところですが、本市としましては中心地の府中駅周辺のまちづくり会社で活性化を図っているところです。中心市街地での事業の成功例を生み出して、それを市内の全商店街に波及させるという取組を現在進めているところです。現時点では、何をやっても商店街が盛り上がらないという状況に陥ってしまっているというのが正直なところです。ここを打破するため、まずは中心市街地から盛り上げていく、その事例を波及させていくという取組を現在行っているところです。

○会 長 ありがとうございます。他にありますでしょうか。

○委 員 今回の評価そのものについてですが、これまでは、令和元年度までに目標を達成できるのかという視点で評価を行ってきましたが、今年度の評価は非常に悩みました。2年間延長するという話があって、そこまでのことを考えて評価をするのか、令和元年度までの実績として評価するのか、ということです。担当課評価というのは、できたのか、できなかったのかで終わってしまうのではないかと、というのがひとつ。二つ目は、②の目標32件に対して実績28件でAとして良いのか、ということです。先ほどの委員のお話と合わせて、①をAとして②をB

と評価すれば、トータルとしてはB評価で良いのではないかなどと印象を持ったところです、②をAと評価するのはどうなのか、という意見です。

というところで、そもそも今回の評価はどう考えたらいいのですか、という質問になります。

○会 長 事務局から回答をお願いします。

○事務局 最終的には協議会で決めていただくことかと思いますが、事務局の考え方ということでお答えいたします。

昨年度計画期間の延長をご議論いただいた際に、目標値の設定をどうするかというお話があったかと思いますが、その時に令和元年度の目標値をそのまま令和3年度にスライドさせることにされております。

ですので、令和元年度時点の評価というよりは、令和3年度に向けて目標値を達成できるのか、すでに達成しているものについては更なる高みを目指していく計画というところでご議論いただければと考えているところです。

○会 長 2年延長への対応については、今、事務局から説明のあったとおりです。そういったスタンスで延長をスタートさせていますので、その形で評価を行うということになります。

今年度行う評価はまだいいのですが、来年度は今年の新型コロナウイルスの影響がいろいろな事業にもろに出てくることになります。現在、商店街イベントなど基本的にできないわけです。そうなったときにどう評価するか、という問題が未来においては確実にあります。

令和元年度については、コロナ禍の影響は年度末からですから、一応平常時と捉えることができるので、今年度行う評価はこれでいいとは思いますが。

○委 員 目標値を令和3年度までそのままにするという議論のあったことを失念していました。わたくしが評価した部分を修正する必要があるかもしれません。

○委 員 国の無利子無担保の制度が利用されていることによって、市制度融資が減少しているということでしたが、そうすると、協議会評価の中の「今後、新型コロナウイルス鑑賞の影響により市制度融資利

用のニーズ増加も予想され」という文章と結びつかないように思いますが。

○会 長 担当課はどう考えていますか。

○市担当課（産業振興課）今年度につきましては、国の無利子無担保の融資制度が継続されますので、基本的には市の融資制度に手が上がる件数は極端に減少すると思われれます。しかし、来年度、コロナの状況にもよりますが、国制度がゼロ金利でなくなった場合は、新たな融資ということで注目をされるのではないかと考えています。

○委 員 来年度の評価については、融資件数減の裏付けとして、国や都が市内で行った融資の件数を資料として付けて、それを加味したかたちで協議会評価をしていくことが考えられるのではないのでしょうか。

○会 長 国の施策がどうなるのかということは、まだ分からないので、来年度、必要に応じてそういった資料を出していただいて協議会評価をするということは、可能性として十分考えられると思います。

○市担当課（産業振興課）委員のおっしゃっていた国、都の融資件数については、市で把握することが困難ですので、資料提出は難しいと考えます。

○会 長 国が教えてくれない、ということでしょうか。

○市担当課（産業振興課）その通りです。

○会 長 よろしいでしょうか。この施策についての審議は、いったんこれまでにしたいと思います。

それでは、続いて施策名「起業・創業の支援」に移ります。

市の担当課の方、担当課評価について説明をお願いします。

○市担当課（産業振興課・協働推進課） （資料3に基づき、評価の概要を説明）

○会 長 それでは、担当の副会長から説明をお願いします。

○副会長 協議会評価をAとしました。

①起業・創業に関するセミナー参加人数は、平成30年度の72名に比べて令和元年度は89名と増加しています。創業希望者にとって関心の高いセミナー等が開催されていることは評価できる。しかし、セミナー参加人数に対する実際の創業者の割合は、令和元年度の方が低くなっている状況が続いています。創業者がより利用しやすい融資等の制度や、新しい時代に即した経営手法等を分かりやすく周知するなど、創業の不安を解消できるような支援を期待したい。

②創業支援を受けた方が、実際にコミュニティビジネスを立ち上げたことは評価できる。今後もコミュニティビジネス実践者の増加を目指すとともに、立ち上げたコミュニティビジネスが地域に根ざし、事業として継続していけるよう、多角的な助言を受けられる体制づくりに期待したいとして、A評価にしました。

○会 長 担当課評価と協議会評価について、一括で議論したいと思います。いかがでしょうか。

○会 長 それでは、細かな点ですが、「市民活動センター」という言葉が使われていますが、これは「プラッツ」のことでしょうか。プラッツと書いた方がいいと思いますが。

○市担当課（協働推進課） 追記いたします。

○会 長 このふたつのKPIに関しては、先ほどのイベント関連と違って、今後ますますニーズが増えていくのではないかと思います。

○会 長 ご質問等、よろしいでしょうか。

それでは、この施策についての審議はこれまでにしたいと思います。次の施策に移りたいと思いますが、ここで説明をお願いしている担当課の方の入れ替えを行いますので、5分程度休憩をはさみます。

担当課の方、ありがとうございました。

(5分間 休 憩)

○会 長 全員お揃いのようなので、最後に施策「歴史や文化、スポ

一ツに触れる機会の充実」の評価に移ります。

市の担当課の方、担当課評価について説明をお願いします。

○市担当課（文化生涯学習課） （資料に基づき評価の概要を説明）

○会 長 それでは、担当委員から説明をお願いします。

○担当委員 担当課の評価はAでしたが、協議会評価としてもAとしました。

①郷土の森博物館及び美術館の入場者数は目標値533,000人に対し579,175人と大きく上回りました。郷土の森博物館では、台風19号や新型コロナウイルスの影響によって臨時休館を余儀なくされたものの、前年度と比較して、年間入場者数及び一日当たりの平均入場者数は増加したことは評価できます。また、美術館でも、開館以来はじめて30万人を上回るなど大きく評価できます。それぞれ様々な企画や展示を行っており、入場者数が増加した要因がどこにあるのかを明確にすることで、今後の取り組みの発展に期待したいと思います。

また、市史編さん事業や府中囃子などの伝統芸能の普及支援の取り組みについても評価できます。今後の継続・発展に期待したいと思います。

②大学やトップチームと連携する事業数は、前年度に引き続き5事業と目標値の3事業を上回っていたことは評価できます。担当課評価の中で、フットサル教室及びチアダンス教室の参加者から、これを機会に競技を始めたいという声が多数挙がったとのことから、実際に競技と継続的に関わることができるような支援を行っていくことに期待したいと思います。

○会 長 ありがとうございます。

他の委員から何かご意見などがあればお願いします。

○委 員 担当課評価の記載内容に関してですが、20ページの「令和元年度の取組内容と評価」の①の評価と②の評価に記載された内容がアンバランスかなという風に感じます。例えば、②の「トップチーム」ですが、多分プロの1軍ということだと思いののですが、どこのチームなのかとか、「フットサル教室及びチアダンス教室等を実施し」とありますが、①と同じくらいの情報量にするのであれば、いつどこで開催されたのか、何人ぐらい参加者がいたとか、「大学との連携」であればどの大

学かなど、その辺の情報を、もし可能であれば、ある程度バランスよく加えていただければいいと思います。21ページについても全く同様です。②が2行で終わっているのもう少し加えていただきたい。協議会評価もここを見ながらの評価になっていくので、評価するための情報がもう少しあるといいと思います。

○会 長 わたしも全く同じ感想です。バランスの問題もありますから、②の方を書き加えた方がいいと思います。

市担当課（スポーツ振興課） 説明の補足をさせていただきます。

「トップチーム」につきましては、市内にはプロのチームが複数ありまして、サントリーと東芝それぞれのラグビーチーム、フットサルの府中アスレチックス、関わっているところではFC東京、また、同じくFC東京のバレーボール、さらにバスケットのアルバルク東京などと府中市は関わっているところです。

また、大学との連携としましては、毎年体育の日に各地域体育館で実施している「みんなのスポーツデイ」において、ボランティアとして大学から参加していただいています。主な大学としては、明星大学のボランティアサークルにお願いしています。

「みんなのスポーツデイ」の参加者数は2,640人、地域体育館すべての合計です。「ボールふれあいフェスタ」はトップチームに集まってもらって総合体育館で開催するイベントですが、1,700人の参加で、いずれも1日開催です。主な事業の参加者数については以上です。

○会 長 今説明いただいた内容を評価票に書き加えていただければいいと思います。確かに、郷土の森博物館や美術館に比べると書きにくいということはあると思うのですが、あまりにも①の分量が多いので、そこを削る必要はないのですが、②を少し具体的に記載した方が良く思います。

○会 長 府中市美術館の来場者数が増えているのは、企画展のヒット作が多いからだと思うのですが、郷土の森の入場者数が増えている理由は何なのでしょう。

○市担当課（ふるさと文化財課） 郷土の森博物館の特徴は、総合博物館として展示主体でプラネタリウムのある本館と四季折々の梅、紫陽花な

どが彩る園内のスペースが複合的に融合した総合フィールド博物館としての位置づけが重要だと考えています。その中で、いま博物館は文化振興財団と五藤光学がグループとして運営しており、地域に根ざした博物館として市民、市外からの入館者が増えています。大きく増えた一つの理由が、平成30年度にリニューアルオープンしたプラネタリウムです。

もう一つは、地道な調査研究活動の成果を展示会で学芸員が工夫して展示しており、「徳川家康と府中御殿」という特別展は非常に入館者数が多く、それらの展示会とともに、園内の梅や紫陽花、特に梅まつりについても、このところ来場者数が増えており、地道な調査研究と園内の特色を生かし、プラネタリウムを併設した総合博物館としての取組が評価されて、市の内外から入館者が増えてきていると考えているところです。

○会 長 五藤光学は郷土の森博物館のすぐそばにある、全国的にも有名な会社ですので、そういった効果もあったということです。
他にありますか。

○会 長 ないようでしたら、この施策についての審議はこれまでにしたいと思います。
これで、本日予定されていた3つの施策について審議が終わりました。事務局は本日の審議内容に基づき、評価票の修正等をお願いします。

○会 長 最後に、次第4「その他」ですが、委員の皆様から何かございますか。事務局からは何かありますか。

○事務局 事務局から2点ご連絡させていただきます。

①次回会議の日程につきましては、10月12日（月）午後2時、場所は市役所3階第4会議室を予定しております。

②次回ご審議いただく施策につきましては、5施策程度をお願いしたいと考えておりますが、具体的にどの施策を取り上げるかにつきましては、ご説明いただく委員の方のご都合もあることから、今後、事務局で調整させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

また、今年度の協議会につきましては、今回を含め合計4回の開催を予定しております。第3回は11月、第4回は12月に開催させてい

ただきたいと考えております。それぞれの日程につきましては、調整出来次第、改めてご連絡いたしますのでよろしくお願い申し上げます。事務局からは以上です。

○会 長 事務局からの連絡事項も終わりました。

では、以上をもちまして、令和2年度第1回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会を閉会いたします。